



Empress Effects / ParaEQ

取り扱い説明書

(株)アンブレラカンパニー

www.umbrella-company.jp

* この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。

無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

電源について

Empress Effects の ParaEQ は **9V DC のセンターマイナス・タイプの AC アダプター** でご使用ください。製品は 100mA 以上のものが適合です。スタンダードな BOSS PSA-100 などの一般的なものをお薦めいたします。本機では内部で電圧を倍に昇圧し 9V アダプターで 18V 相当の大きなヘッドルームとダイナミックレンジを獲得できます。(AC アダプターは別売です)

Introduction

Empress Effects の ParaEQ はパワフルで音楽的なハイクオリティ EQ です。もっとも高い品質のオーディオ・シグナル・パスとコンポーネント構成で低ノイズかつパワフルなトーンシェイプを達成しています。ParaEQ はあなたの楽器をより音楽的に、向上させます。



Controls

low q, mid q, hi q

上部のミニトグルスイッチはイコライザーでブースト/カットするレンジの幅(Q)を調整します。もしワイドな幅のマークを選んだ場合には周波数セレクトノブ (lf,mf,hf)で選択した周波数の周辺の周波数までワイド幅にブースト/カットすることになります。真ん中ポジションの狭い幅のマークの場合には選択した周波数のみ(またはその周辺のみ)を持ち上げたり、カットしたりします。一番左側のポジションはノーマルな EQ 幅となります。

input pad

このスイッチでは入力信号を PAD して低くします。通常は 0 に合わせてください(PAD は働きません)。もし入力レベルが大きすぎて予期せぬ歪があるようでしたら、状況にあわせて PAD スイッチを-12、または-6 に合わせてください。

lf, mf, hf

このノブでブーストやカットを行うイコライジングの周波数の中心となる帯域を調整します。lf は低域、mf は中域、hf は高域の周波数を決定します。またワイドレンジで細やかなコントロールのためにそれぞれの帯域はオーバーラップした設計になっています。

boost

このノブでは出力のレベルを決定できます。クリーンブーストとなっていますので 0db ~ 30db までのブースターとしてご利用いただけます。ご希望の出力レベルになるまでノブを調整します。

low gain, mid gain, hi gain

この3つのノブは上記で設定した周波数に対してどれだけの量をブースト、またはカットするかを調整します。12:00 の中央ポジションではブーストもカットも行いません。+側に回すと周波数を+15dB ブーストし、-側に回すと-15dB カットします。

bypass switch

トウルーバイパスの on/off スイッチです

boost switch

ParaEQ の boost ノブでのブースト機能を個別に on/off できます

input

楽器信号からの入力です

output

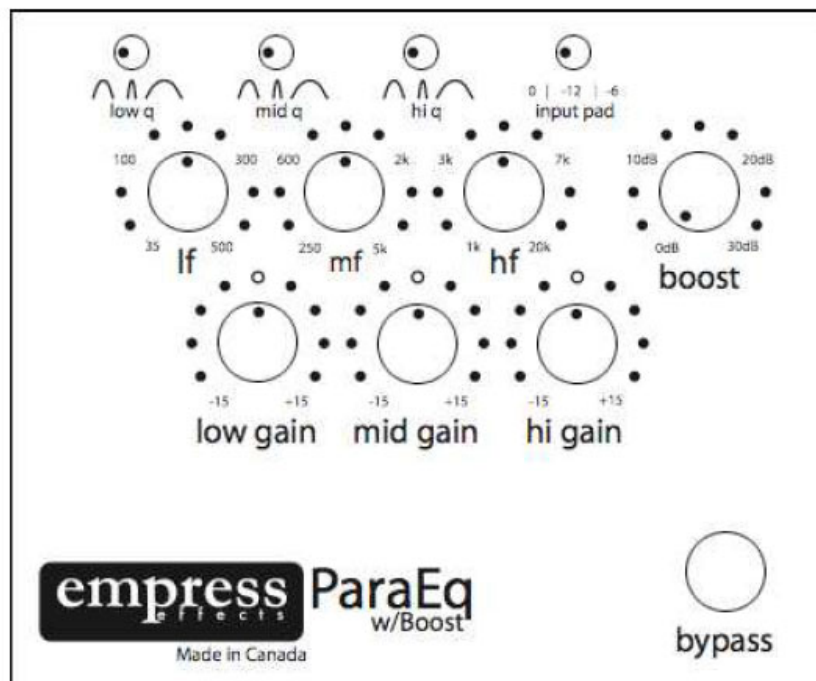
出力ジャックです

Power

Empress Effects の ParaEQ は 9V DC のセンターマイナス・タイプの AC アダプターでご使用ください。製品は 100mA 以上のもが適合です。スタンダードな BOSS PSA-100 などの一般的なものをお薦めいたします。(AC アダプターは別売です)

Quick Start

ガイドラインとなる最初の使い方を解説します。



上図のようにスイッチやノブを設定します。bypass スイッチを有効にして音を聞きながら自分の欲しい帯域をブーストまたはカットして調整します。

サンプル・セッティング

サウンドをスイートにする一般的な方法

エレクトリックギターなどで少しでも高域をブライトに輝かせたい場合は 3kHz~5kHz 辺りを wideQ(EQ の幅を広めで、一番上のスイッチを一番右側に倒した状態)で控えめにブーストしてみます。同じように wideQ での低域のブーストはあなたのギターサウンドの温かみを演出します。

トーンの調整例

アンプからなるサウンドが少しブーミーに感じるときには 200Hz~600Hzあたりを mediumQ(左側に倒した状態)でカットしてみるとよいでしょう。

フィードバック対策

アコースティックギターの DI 出力などでフィードバック対策には高域バンドを狭い EQ 幅でカットします。フィードバックを起こしている周波数を的確にカットして、できるだけオリジナルのサウンドに影響のないように処理が可能です。

ディストーションのエンハンス

ParaEQ の大きな特徴として EQ とブースターの同時仕様によりトレブルブーストやミッドブースターの使用ができる点があげられます。たとえば高域バンドをブーストしてアンプに与えることでアンプの高域の歪をエンハンスすることができます。真空管アンプやオーバードライブのブースターとして最適です。

イコライジングの基礎

Qコントロール

Q コントロールはイコライジングを実行する際のブーストまたはカットの EQ カーブの幅を表します。ここでは ParaEQ でコントロールできる 3 つの Q の幅について解説します

Narrow Q (スイッチポジション真ん中、狭い EQ カーブ幅)

この設定はアコースティックギターのフィードバックを処理したり(主に 3kHz ~ 10kHz 付近)、アンプの部屋鳴りの調整に最適です。共鳴が起きている周波数を的確にカットしてあげることでアンプの部屋鳴りを微調整して明瞭に響かせます。また狭い Q で過剰にブーストしたサウンドはリングモジュレーターのようなサウンドになる場合がありますが、この風変わりなサウンドを積極的に生かすのも良いのかもしれない。

Medium Q (スイッチポジション左側、ミディアム EQ カーブ幅)

大半の一般的な楽器アンプの Q はこのミディアム設定のようになっているでしょう。一般的なトーンシェイピングにお使いいただけます。以下は一例です。

- ・アンプサウンドが濁っているような場合は 300Hz - 400Hz 辺りをカット
- ・サウンドが暗めに感じる場合は 1kHz - 5kHz をブースト
- ・ギターサウンドに“twang 感”が欲しいときには 700Hz - 2kHz をブースト
- ・ベースギターにアタック感が欲しい場合には 900Hz - 4kHz レンジを調整

Wide Q (スイッチポジション右側、ワイド EQ カーブ幅)

広い Q 設定では狭い Q レンジよりも色付けの少ない自然なイコライジングが可能です。たとえば 100Hz のブーストではリッチでウォームなサウンドに、3kHz レンジでは細かい部分まで明瞭なトーンをクリエイト可能です。

周波数帯域の詳細

ベースギターでの場合

30 - 80Hz : サブベース帯域です。あまりブーストしすぎると良い結果がでにくい帯域です

80Hz - 150Hz : 低域のベースサウンドの低域の量感を大きくコントロールします

150Hz - 500Hz: ベースサウンドが混沌とする場合にはこの帯域は有効です。

500Hz - 900Hz : トーンに力強いミッドレンジを加えられます。逆にカットするとクリーンなサウンドになります。

900Hz - 3kHz : アタック感を強調します。ピックアタックやフィンガリングのノイズを解消するのにも有効です。丸く優しいトーンをクリエイティブします。

3kHz 以上 : 信号に影響なくノイズをカットできます。またサウンドにエアー感を与えます。

エレКТリックギターでの場合

80 - 150Hz : ブースト方向では微かな温かみを、またサウンドの大きさを演出します。カット方向ではサウンドの Rumble 感を調整します。

150Hz - 400Hz : カット方向ではサウンドの混濁を補正、またはブースト方向では温かみを加味します。

400Hz - 800Hz: カット方向ではサウンドをより輝かし、ブースト方向ではアグレッシブなエッジ感をサウンドにプラスします。

800Hz - 2kHz : サウンドの力強さでギターサウンドを演出します。カット方向ではより丸みを帯びたサウンドを演出します。

3kHz 以上 : ブーストではサウンドのブライツ感を、カット方向ではノイズの補正や耳につく高域を補正できます。

アコースティックギターの場合

35 - 100Hz : サウンドのモゴついた部分を補正できる帯域です

100Hz - 200Hz : アコギのブーミーな部分を補正します。ローエンドの響きをカットまたはブーストできます。

400Hz - 500Hz: 温かみを演出できる帯域です。カット方向ではサウンドをすっきりさせます

500Hz - 4kHz : 生き活きとしたアコースティックサウンドを表現する帯域です。アグレッシブさをブースト、またカットした場合にはメローなサウンドになります。

4kHz - 8kHz :アコースティックギターの高域のブライト感を演出します。カット方向ではチリチリした高域を補正できます。

5kHz 以上 : サウンドのエアリー感を強調したり、ノイズを補正したりできます。フィードバック対策にも有効な帯域です。

電源電圧について

*ParaEQ は本体内部の DIP スイッチは、本機仕様が内部昇圧型に仕様変更となったため不要になりました。9V の AC アダプターでも最大のヘッドルームとダイナミックレンジを獲得できます 9V の AC アダプターでのみご利用ください(2014 年 8 月追記)

*Empress Effects の公表では 9V~18V の AC アダプターに対応しておりますが、一般的な 9V 仕様の AC アダプター(センターマイナス、BOSS タイプ)で、最高のエフェクト・パフォーマンスが実現できます。Empress Effects 製品の設計は、内部電圧レギュレーターによる安定化電源と、チャージポンプ・コンバーター回路による正負電源化回路を備えています。この 2 段構成の電源回路により、ダイナミックレンジや S/N 比と言ったサウンドの基本となるオーディオ性能を高めています。12V~18V の AC アダプターを使用しても発熱量が増えるだけで、実際のサウンドへのメリットはございません。